



平成31年2月28日

園長通信 第94号

## 「3つの資質能力」

### 学校教育のスタートとして

園長 安達 譲  
yuzuru@hijiri.ed.jp

#### 公開保育へのご協力ありがとうございました

早いもので30年度も後ひと月を残すだけとなりました。

先日は日本保育学会が指定する全国7カ所の1つに指定され、公開保育を実施いたしました。降園時間を通常より1時間早くさせていただき、申し訳ありませんでしたが、ご協力いただきありがとうございました。午後からは研究者の方々や他園の方々等80名が参加されひじりの保育を見学されての質疑応答に引き続き、園内研修を公開して行いました。

例えば、医師が病院を休診して学会に参加したり、小学校の担任が授業を他の先生に代わって研修に出たりするように、園として機会あるごとに保育を公開し、参加者の方々と質疑応答を行うことにより、改めて自分たちの良さに気づいたり、新たな視点を頂いたりすることができます。全ては教育の質の向上につながり、質の高い幼児教育を受けた子どもたちの人生の基礎を培うことにつながっています。

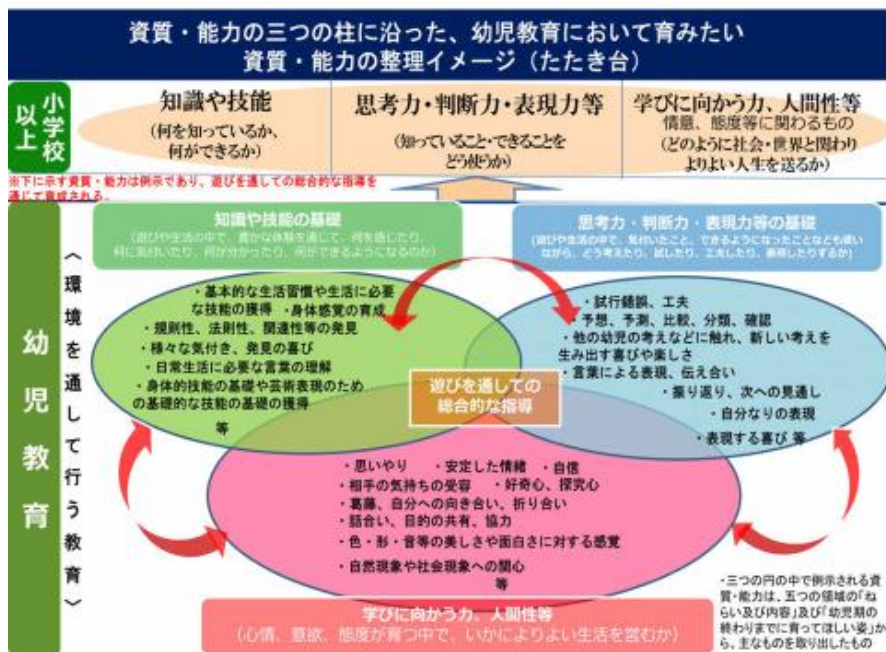
ただ、幼児教育は「見えない教育」とも言われてきて、その成果が現れるのは20年後、30年後ですし、数値で図ることもできません。ですから、世間では、〇〇式の教育方法とか幼稚園で算数や英語を教えたりなど学校教育の前倒しで賢く見せようとする幼児教育が溢れています。国内外の縦断研究（有名なところではノーベル経済学賞受賞者ヘックマン教授のペリー就学前調査など）では、就学前教育の内容が非認知能力の向上に重きを置いたものだったことから、認知能力というより非認知能力を高めることにより長期的効果が現れたと分析しています。私自身も私立の小学校に10数年勤務していた経験から幼稚園で早期教育により知識を教え込まれたことの効果は3、4年生で消えてしまい、学習意欲やコミュニケーション能力での悪影響を感じました。では、質の高い幼児教育はどのようなもので、その質の高さはどのように測るのか？一言で質の高さを表したり、測ったりすることが難しく様々な指標が用いられます。東京大学の秋田喜代美教授は以前幼児教育の質を図る視点として次の3つを示されていました。

- ① 構造の質 部屋の面積であったり、子どもと保育者の人数比等
- ② プロセスの質 子ども理解に基づく保育者の受け止めや関わり方等
- ③ 成果の質 結果として育ったこと〇〇できるようになった等

これら3つの中で①③は分かりやすく、①などは数字に表すこともできます。しかし、②のプロセスの質は目に見えにくいのですが、子どもの育ちにおいては最も重要であることが分かっています。

一方、OECDが示す質の中にはカリキュラムの質も含まれています。子どもの発達や子どもの育ちの姿に即した育てたい能力等が整理されたカリキュラムがあること、それらのカリキュラムを子どもの姿から定期的に振り返り改善すること（カリキュラムマネー面と）が質の高い幼児教育の必須条件になっています。カリキュラムマネージメントという言葉は幼稚園から高校に至るまで日本の教育界の中では重要な課題となっています。

今回の改訂では幼児教育から高校教育に至るまで一貫して育てたい3つの資質能力（知識技能、学びに向かう力・人間性、思考力・判断力・表現力）で下の図のように整理され、幼児教育は学校教育のスタートとしての位置づけが明確になりました。このような変化を踏まえて、カリキュラムも古いタイプの「学ぶ内容（コンテンツ）」が並んだものから、子どもの発達に合わせて「資質や能力（コンピテンシー）」を整理されたものに変えていく必要があります。



話が難しく、長くなってきましたが、実はせんりひじりではこのカリキュラムを子どもの姿からそのような資質・能力ベースのもの（3年あるいは誕生からの6年の間にどのような力が育まれていくかを整理したもの）に3年前から取り組んでいます。そして、先日の公開保育の午後の部では園内研修としてカリキュラムや教育課程の作成過程を参加者にも公開しました。いつもお世話になっている大妻女子大の岡教授からは「またステージが上がりましたね。まだどこもやっていないことだから、完成したらすごいことになりますよ。」というお話をいただきました。カリキュラムや教育課程の制作（見直し）過程において、せんりひじり幼稚園の先生達の子どもの成長（資質・能力の育ち）を見取る力は確実にアップしていることを実感しています。

絵を描かせる、合奏をさせるといった内容が並んだ昔の表面的な計画では無く、30年後の社会がどんなに変化して予測困難な時代になっても、人間らしく、自分らしく、自ら課題を見付け、自ら学び、考え、判断して生きていくことのできる人を育む保育計画（教育課程）を作成することが重要です。私の知る限り国内でここまで詳細に子どもの育ちを検証し、計画につなげようとしている園はまだ無いと思います。

いつも園の教育にご理解・ご協力をいただき本当にありがとうございます。子ども達の育った姿を喜びながら今年度の残りの日々を充実させていきたいと思えます。

## 公開園内研修の様子

午後からの質疑応答。  
公開保育をする意義や、これからの幼児教育で重要なことの説明。



ひじりひがしの保育者も合流し、グループごとに、育ちのつながりを探ります。



5歳児担任の視点から育ちをつなげるグループ



3歳から5歳の育ちのつながりを検証しからどのような力が育ったのかを発表しました。



ここからまだまだ進化していきたいと思っています。